

令和4年度 第1回 桐生市環境先進都市将来構想推進協議会ゆっくりズムのまち桐生ワーキンググループ議事録

1. 日 時 令和4年6月29日（水）19：10～20：30

2. 場 所 桐生市役所 新館5階 501会議室

※令和4年度 第1回桐生市環境先進都市将来構想推進協議会終了後に開催

3. 出席者

(1) 委員（14人）

会 長：天谷 賢児〔群馬大学大学院理工学府 教授〕
副 会 長：近藤 圭子〔きりゅう市民活動推進ネットワーク 理事長〕
委 員：西菌 大実〔群馬大学共同教育学部 教授〕
根津紀久雄〔特定非営利活動法人北関東産官学研究会 会長〕
藤生 五郎〔桐生商工会議所 副会頭〕
深澤 光秋〔新田みどり農業協同組合 総務部長〕
新井 悠大〔桐生広域森林組合 業務部部長〕
今泉 芳雄〔桐生市家畜自衛防疫協議会 会長〕
佐羽 宏之〔2015年からの生活交通をつくる会 会長〕
小島 由美〔未来創生塾 副塾長〕
坂本久美子〔桐生市女性人材リスト（農業委員・花き栽培）〕
中野 久美〔桐生市女性人材リスト（建築設計）〕
村上 恵理〔桐生瓦斯株式会社営業部 次長兼特需課長〕
（欠席者）茂木 理亨〔桐生商店連盟協同組合 副理事長〕

(2) 事務局（4人）

関口市民生活部長
高橋環境課長
金子環境都市推進係長
高橋主任

4. 議 題

『ゆっくりズムのまち桐生』の今後の進め方について

5. 議事要旨等

【委員】

普段からオウセイ（OHSEI）という超小型モビリティに乗って実証実験をおこなっている。トヨタシーポッドの1/5の出力である。使う電力は少ない。乗り心地を考えるとトヨタ車の方が良い。ゆっくりズムについて、宝田先生の論文からひも解くと、世間で言われていることには出てこない問題が潜んでおり、このことについて避けずに考えていかないといけないのではと感じる。

【委員】

ゆっくりズムを実際に実施するにあたり、桐生市内ではスピードをあげて車を走らせている人が多いと感じる。桐生の地域を限定してやると良いと思う。

群馬大学の外国人留学生へ桐生の文化紹介を実施するにあたり、日本人の学生にも紹介して欲しいとの依頼があり、桐生市のまち歩きを実施しようと検討している。大学と産官学研究会だけでは難しいので協力いただければと思う。学生も桐生の事を知れば、桐生で仕事や居住をするきっかけにつながると考える。

【会長】

ゆっくりズムのこれまでの議論の中で、自分達のまちを知ることも議題に上がっていた。

【委員】

本町通りは、この時期特に感じるが、日陰がない。新桐生駅の桜並木は、桜が咲いている時期はとても良いと感じる。市内の街路樹は、刈られていることが多く、特に印象にない。

暑い時期に街路樹で日陰をつくることは、視覚的にも良いと思う。

【会長】

緑化関係も研究していたが、東京など都心は緑化率が高く、地方都市は低いと聞いた。街路樹の維持管理費用が高いことが理由のようである。剪定の他ほか、落ち葉の問題もある。

【事務局】

緑化に関しては、土木課及び公園緑地課で事業を行っている。街路樹の問題としては、道路や歩道の幅員が狭いことや維持管理費がかかることがあげられる。また、地元住民が高齢化で落ち葉を清掃できないのが問題とされていると聞き及んでいる。

【委員】

宮本町に緑のトンネルになっている所があり、綺麗で気持ち良いと感じる。

渋川の旧宿場町である子持の方は水路がある。まち中に浅くても良いので水路があるとイメージだけでも水と緑が身近に感じられるまちとなると感じる。

また、子どもたちが遊べる水路整備があると良い。朝倉染布近くの水路には木がかかってとて

も風情がある。小さい子どもにも印象に残る景色であると思う。どこかと違うまちにしていかないといけないと思う。

【委員】

昔はまち中に水路がたくさんあったが、自動車社会が発展するとともになくなってしまった。

【会長】

桐生は、昔、水路が多く、水のまちであった。以前に法政大学の堀尾氏が、水のまちとして桐生を題材とし、調査研究を行った。調査により、本町通りなどまち中には水路がたくさんあり、水のまちであったことがわかった。

【委員】

梅田方面から、桐生川の水を本町通りへ引き込むことも可能だと思う。

【委員】

本町通りを時間的に一方通行にしても良いと思う。幅員が狭い場所ではスピード出ないようにする取組もあり、部分的に舗装を石畳にしている。また、石畳の脇に街路樹を植えると、ゆっくりリズムに合ったまち並みになると感じる。

【委員】

将来構想の中身が実現すれば、ゆっくりリズムの実現になると思う。将来構想を市民が知らないなので参画していない。

【会長】

できるだけ市内に出ていき、市民の意見を集約していきたい。

【委員】

アースデイでの調査結果から、桐生の自然の良さを認識している市民も、一定数いることがうかがえる。市民の感覚では、自然は良いという感覚はあると思う。

未来創生塾では、これまでも川に足をつけ読書をする『清流読書』を実施してきている。みんな身近に取り組めることであり、自然の良さを認識できる取組である。

【委員】

桐生は、今と昔では緑やまち並みが違うと感じる。昔は、子どもたちの「桐生のまちに遊びに行きたい」という思いが溢れていた。桐生に1つでも2つでもスポットのような場所があれば、水場とか花見とかのスポットでも良いが、人が集まる場所があると良いと感じる。

【会 長】

桐生が岡動物園とかを例にまち中にいくつかスポットがあれば良いと思う。新川公園などで新しい資源を発見していくのも良いと思う。

【副会長】

市民は、市内で行ったことがない所が多いと思う。まち歩きと絡めて、水と緑のスポットを巡れるようにできると良いと思う。まずは子どもたちと行って、体験させるのも1つの手段だと思う。それには、見どころなどのスポット情報を出さなければならない。

【会 長】

市内の花の開花情報などがあるとよい。仕組みがあれば、市民も参加しやすいと思う。

【委 員】

人を呼び込む資源として、桐生市は今現在、桐生が岡公園のレッサーパンダを見に来る人が多いようである

また、BS日テレで企画している「ニッポンの神業ミュージアム」が、6月25日にギャラリー禅林でオープンした。梅田の刀鍛冶の工藤氏と芸能人のヒロミ氏が刀を作り5月30日にお披露目をした。オープンの来館者は480人であったが、翌月曜日は38人であった。ウィークデイに来る人が少ない状況にある。

BS日テレの1回の放送で80～100万人が見ると言われており、ゆっくりズムもタグを組み合わせれば大きなものができると思う。

【会 長】

観光で訪れる人が、「このまちはゆったりして心地良い」と感じるまちづくりが必要と感じる。

【委 員】

県が行っている花と緑のフェスティバルを昨年桐生で実施したが、イベント期間中にまち中に花壇を作って展示するだけではなく、市民に呼びかけて、オープンガーデンをやってくれる人を募集するなどの取組を行っても良いと思う。

【委 員】

桐生市の花はサルビアである。サルビアの咲く時期に合わせ植栽するのが良いと思う。

昔は学校にいっぱいあったが、最近は目にしない。植栽の補助金を出すことや、市で無料配布などしてはどうか。最近の人は知らないと思うし、普及できれば良いと感じる。

【事務局】

数年前までは公園緑地課で携わっている「桐生市緑と花の会」がイベント時に花の種や苗の配布を行っていたが、活動が縮小してしまった。

【会 長】

水と緑のまちとして、市の花であるサルビアをテーマに何か取組ができればと思う。

まずは自分たちのやれる範囲でできればと思う。例えば企業に支援してもらい、サルビアを育てる企画など少しずつ始められることを考えていければと思う。

【委 員】

黒保根の水沼駅の桜は大変綺麗である。桐生市内には運動公園など桜の木が植えてある。地元民はあまり気が付かないが、地方から来る人は綺麗であると感じているようである。

桐生市内での桜の見どころをピックアップしてパンフレットにし、歩き回れるようにすると良いと感じる。

【副会長】

関連する団体と連携することで実施できると考える。例えば、花と緑の会、織都桐生案内人の会などとワーキングだけの開催時に一緒に協力できること検討してはどうか。ある程度実施事業内容を絞ってできればと思う。

【会 長】

ゆっくりズムのまち桐生を推進するための取組として、周知するためのパンフレット作製。大学生にも参加してもらい桐生の文化を知ってもらうまち歩きのイベント。花と緑と水して長期的にはなるが花の開花・桜の見どころスポット等をまとめパンフレットにすることやまち歩きイベントの開催が考えられる。

【委 員】

10月13日に案内人の会が新宿の水路を巡る旅を企画しているようである。40名募集を予定しているとのこと。

【委 員】

案内人の会などの既存の活動に、ゆっくりズムのまちなどフレーズを入れてもらうとゆっくりズムの啓発につながると思う。

【委 員】

桐生川の歩道の整備が近年されている。歩きやすくなったが、いつも同じ人しか歩いていない。川の土手に植樹できるか、以前国に確認したことがあり、管理上樹木はだめであった。サルビアであれば草花なので、土手に植えることが可能かもしれない。人を呼び込むスポットに成りうる可能性がある。

【委 員】

梅田の柄杓山は桐生城の城跡であり、整備されており桜がきれいな山である。

【会 長】

ワーキンググループを7月か8月に開催する。花と緑の会を呼んで一緒に活動できないか考える。最初のステップとして11月の講演会に市の花と緑の資源を発表できればと考える。

【副会長】

SDG s の活動として身近なことから始められるように、今年度も子ども向けチャレンジシートを作成した。子どもたちと一緒にSDG s の活動ができると良いと考え全校配布を行った。

以 上